

カレル橋

Bridges of the World

チェコ・プラハ



チェコスロバキア・1978年発行

ボヘミアの森に源を発したヴルタヴァ川（ドイツ名ではモルダウ川）は、プラハの街を南北に貫くように流れています。ヴルタヴァ川には12世紀後半にユディタ橋と名付けられた初めての石造アーチ橋が架けられました。

プラハが都市としての発展を遂げるきっかけになったのは、13世紀前半に右岸の旧市街側に塁壁で囲った都市が建設されたことでした。続いて13世紀後半には左岸地区にも計画的な街が造られました。その後、14世紀半ばに登場したカレル1世（神聖ローマ帝国のカレル4世）の時代にはチェコ王国の首都としてプラハは大いに発展しました。兩岸の街が発展するにつれて橋の重要性が増していきました。ユディタ橋は1342年の大洪水によって壊滅的な被害を受け、直後から木橋が架けられていましたが、1357年にカレル1世の命により現在のカレル橋が着工されました。工事はカレル1世の在位中には完成せず、1402年ようやく完成しました。

この橋は単に「石橋」とか「プラハ橋」と呼ばれていました。「カレル橋」と名付けられたのは1870年のことです。

カレル橋は、橋長約516m、幅員9.5mの規模を持ち、16基のアーチが支えており、そのスパン長は17～23mです。橋の上には旧市街側に1基、小地区（マラー・ストラナ）側に2基の塔が建てられています。小地区側の南側の低い塔はユディタ橋当時のものですが、16世紀末にルネサンス風に手直しされています。

現在のカレル橋の高欄部には合わせて30体のキリスト教の聖人の彫刻が据えられていますが、建設当初からあったものではありません。現在置かれている彫刻のうちで最も古いものは聖ネポムツキーの像で、1683年に建てられました。

カレル橋は、600年の間には度々の洪水で一部が破壊され、そのつど修復されてきました。1784年2月には氷塊がアーチを塞いだために大きな水圧がかかり、橋脚の上部が崩壊、1890年9月には大量の木材が橋に流れかかって数基のアーチが破壊され、そのつど数年にわたる修復工事が行われました。近年も石材の劣化に対応して、新しい技術を適用した修復が何度か行われています。



撮影：松村 博